

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392800039		
法人名	医療法人十喜会		
事業所名	グループホーム向陽 A		
所在地	愛知県碧南市中山町6丁目10番地		
自己評価作成日	平成31年3月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユニバーサルリンク		
所在地	〒463-0035 愛知県名古屋守山区森孝3-1010		
訪問調査日	平成31年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は医療法人であり、病院、老人保健施設、デイサービス、居宅介護支援事業所を有しております。本人や家族が望めば、責任を持って最後までお世話させていただきます。安心してグループホームに入居して頂きたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは地域の病院である医療法人が介護老人保健施設やデイサービス等を運営する母体である。病気や病气予防に関して家族の安心を得ている。要望があれば受診支援をホームで実施している。仕事をしている家族や高齢の家族にも有難い取り組みとして喜ばれている事がアンケートから読み取れた。常勤のみで支援しているホームは離職率が低く勉強会等の指導に一貫したものである。法人内の移動で去年管理者となったが、ホームで前管理者の片腕となって勤務していた強みを備えている。利用者や家族また地域の商店と顔馴染みである事がホームへの理解を深めている。4月からは外国人の介護職員が来ることで利用者や家族の安心に繋がるようまた職員間で協力してそれぞれの個性が生かせるホームになるよう緊張感がおっとりとした口調の管理者から伝わってきた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己	自部外	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の理念「本人の意思と家族の思いを十分に尊重する施設」を基に本人のやりたい事をできる限り行うようにしている。	ホームの理念は「本人の意思と家族の思いを十分に尊重する施設」として自由に地域に出かけられる要望の支援を管理者と職員全員で実践している。理念の勉強会を実施後、「初心に振り返り理解が深まった」との報告者を管理者は手にしている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、回覧板を回したり、声を掛け合ったりする。当事業所の秋祭りには近所の方々を招待している。昨年度に続き地域行事のハロウィンウォークに参加した。	町内会の盆踊りにはホームから景品を出して協賛している。市の花屋さん達の声かけで毎年継続しているハロウィンウォークで仮想した子供達に合言葉で館を渡す事が楽しみになっている。ホームの秋祭りには近隣の家にポストインで招待をしている。チンドンや和太鼓等の催し物、チケット配布で屋台形式の食べ物を利用者と一緒楽しんで頂いている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議や敷居の低い勉強会に出席し、民生委員や他事業所とのつながりも持っている。中学生や高校生の職場体験の受け入れもあるが、今年度は希望者がいなかった。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で家族に職員の異動、研修等の報告をしている。家族からの意見要望を聞く良い機会なので、職員も交代で出席し、家族の思いを感じ取り日々のケアに活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催、家族、民生委員、包括支援センター・高齢介護課職員、地域の商店、管理者、職員が参加している。会議では事故等報告して再発防止に向けた貴重な意見や質問の場となってサービスの向上に取り組んでいる。外部講師を招き倫理・権利擁護と身体拘束・接遇・コミュニケーション技術・ストレス等勉強会の機会と活用している。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1度運営推進会議の議事録を提出す時、お互いの情報交換の場としている。	地域包括支援センター・グループホーム協議会の会議や勉強会に参加している。運営推進会議に包括支援センターもしくは高齢介護課からの参加あり、相談をしたり情報を頂いたり協力関係を築いている。介護相談員の受け入れがあり利用者やホームの相談役として風通し良くなっている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	平成30年9月に内部研修を実施し職員への理解を促した。日中、玄関の施錠はしていない。	玄関・2階のユニット入口・エレベーターは自由に往来が出来るようになっている。拘束のない支援に戸惑う職員もいたが勉強会・本人の思い・家族の意向を考えて自由の中の危険をどのように回避できるかアイデアを出し、気配り目配りを心がけて取り組んでいる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	平成30年9月に内部研修を実施し職員への理解を促した。	

己	自	部	外	項目	自己評価	外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8				○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	平成30年9月に内部研修を実施し職員への理解を促した。		
9				○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に退居時の居室修理費やクリーニング代などについて説明をし、納得の上捺印してもらっている。		
10	(6)			○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議などで、意見交換が行われている。会議欠席の家族には、面会された時にこちらから声を掛け、要望などを聞き取っている。	本人・家族の意見や思いを表せる運営推進会議の機会を大切にサービス改善・向上に繋げている。玄関施設については運営推進会議に運営の理念は変わらない事・社会状況を説明して家族の理解を得ている。	
11	(7)			○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	最低月1回のミーティングを設けており、気軽に意見が言える環境をつくっている。	管理者と職員はホームの現状を考え調理に関して意見交換を行った。結果グループホームの「家庭的な」に着目し、毎日の買い出し・献立をユニット毎に考え利用者と一緒に調理をする事に戻った。利用者の出来る事や役割が持てる事に反映させた一例が聞けた。	
12				○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は不定期ではあるが来設し、直接管理者や職員と話をしている。電話はいつでも通じる環境となっている。		
13				○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で月1回勉強会がある。外部研修には管理者が個人的に勧めたり、希望すれば、勉強する機会がある。		
14				○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知県グループホーム連絡協議会に加入して、市外の事業所とも勉強会などで交流している。市内に4事業所があり、当事業所の秋祭りに招待したり、ボランティアを紹介して繋がりを持っている。		

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接で好きな食べのものを聞き入居日の献立に取り入れ、本人の不安を少しでも取り除く。本人の隣で食事をしたり、お茶を飲んだり寄り添うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの本人の性格や好きだった事等家族より聞き取る。家族にここに入ることによって心配な事を聞き対応していく。家族も始めは緊張されている為、コミュニケーションを密に取るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の心配ごとへの対応考え、入居して頂いたのだから家族が安心してもらえるように、また場所が変わり本人の不安軽減に対応する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者ができる事は皆で協力してやってもらっている。買い物、掃除、食事の準備や後片付け、洗濯物たたみなど、助けあえる環境をつくっている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診、理美容、誕生日の夕食を家族にお願いし、協力してもらっている。お祭り、忘年会など行事の参加も家族の役割と思って参加を呼び掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのスーパーに出掛け、知人に会ったりすることがある。友人や親せきが気軽に訪ねて来てくれる雰囲気をつくっている。	「カラオケに行きたい」との声に近隣の認知症カフェに行ってみようと思える機会を支援している。毘沙門やいちご狩りに出かける事の支援も喜ばれている。知人が訪ねて来る人もいる。家族と一緒に外食・墓参り・外出をする人もいるがホームから個々に出かける支援も実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が上手く関わられるよう間に入ったりしている。気の合わない人もいる為関わる際には十分注意して見守っている。		

己	自	部	外	項目	自己評価	外部評価		
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22				○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院し、退去された方でも職員が見舞う。又管理者はグループホームでの生活や家族の思いを病院の看護師や相談員に伝えている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>								
23	(9)			○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の話の中で本人の思いを感じ取ったり、本人と話し合いながらケアを行っている。不十分な点は家族より聞き取り、本人本位に行っている。認知症が進んでくるとなかなか難しい点が多い。	日常の中でのつぶやきや思いを聞き取っている。決まりごとは殆どなく利用者の思いの時間が持てる様支援や見守りをしている。家族からの意向を伺ったりアセスメントシートの情報を参考に対話時の表情を見て個々に検討している。		
24				○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に聞いたり、カルテを見たり情報収集するよう努めている。又他の職員と共有している。			
25				○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りで、いつもと違う様子などを伝えている。又月1回、カンファレンスで本人の状態を共有し合っている。			
26	(10)			○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン更新時は、職員皆で話し合いながらモニタリングを行いケアプランに役立てている。6ヶ月に1度だが、変化あればその都度ケアプランを変更している。	月1回のカンファレンス、6ヶ月に1回のモニタリングを開催している。毎日の申し送りノートで利用者の様子を職員全員が把握できるようになっている。ユニット毎に職員全員が現状に即したプランとなっているか意見を出し合っている。		
27				○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化や気づきがあれば、カルテや申し送りノートに記入し、情報を共有している。			
28				○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望を可能な限り叶えられるよう、前向きに検討している。			

己	自	部	外	項目	自己評価	外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29				○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入し、回覧板を通じて交流している。 また、買い物の際にスーパーの職員との挨拶で地域とのつながりを作れている。		
30	(11)			○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人、家族が納得するところとしている。本人の日常の状態は家族より当事業所の方が把握できている為、受診の際は健康チェック表のコピーを持って行ってもらうこともある。	法人の中に病院、老人保健施設があり、入居者は往診や受診することが出来る。強制はしていないが入居者は全員提携病院を担当医としている。訪問看護は契約していないが提携病院の看護師に相談できる。提携歯科の治療や検診も受けられる。	
31				○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化あれば看護師に連絡するようになっている。		
32				○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先が市民病院や法人内の病院は横のつながりができており、特に支障はない。入院時その病院のソーシャルワーカーに元気な時の本人の状態や性格の特徴など細かに伝えている。		
33	(12)			○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所でできる事を十分説明する。本人、家族に入院はどこにしたいか希望を聞き、状態が悪くなればその時その時で確認する。家族の意向に沿うよう努力する。	入居時、家族に終末期ケアや、医療行為が必要になった時の希望を確認している。原則として医療行為が必要になった時は提携病院や老健施設への転院を勧めている。家族の希望で看取りをしたのは一件のみであるがスタッフ全体の準備がまだ整っていない。	
34				○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが、夜間等の事故対応には不安はある。		
35	(13)			○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時、地震時の簡単なマニュアルはあるが、夜間帯夜勤者は不安が大きい。		

己	自	部	外	項目	自己評価	外部評価		
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>								
36	(14)			○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し対応をしているつもりでケアをしている。	入居者一人一人の好みや嫌いなことを把握し、接する時は相手の表情をみて感情を推察している。スタッフ自身がされて嫌なことは入居者にも行わない。入居者の希望が難しい場合にはストレートに拒否しない。等を念頭に置いて接している。		
37				○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好みのおやつや希望や着替えの服を選んでもらったり、二者択一などで選びやすいように工夫している。			
38				○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	基本、本人の生活リズムを大切にしている。居室に入ったり出たり何度もしたり、遅くまで起きていたり、自由である。今日はコーヒーが飲みに行きたいと誰かが言えば、都合が良ければ出かける。			
39				○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できるだけ本人に服を選んでもらったり、床屋がいい人、美容院がいい人、化粧水や乳液を付けたい人。爪の手入れでマニキュアをする方もいる。			
40	(15)			○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニットで献立が違う。献立を立てる際、入居者に希望を聞きなるべく取り入れる。(天ぷらうどん、さしみなど)準備片づけなど、能力に合わせ行ってもらっている。	ユニット毎に当日の食事当番が入居者の希望を聞きながら献立をきめる。毎日午前中にそれぞれの食材を買い出しに近所のスーパーへ行く。調理は主にスタッフがを行い、簡単な準備を手伝ってもらっている。スタッフも同席して食事しながら声掛けをしている。		
41				○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は個々に違う為、盛りつけている。水分については10時12時15時の他ペットボトルを使用している人もいる。			
42				○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後の口腔ケアのみ全員しているが、後は人それぞれで、毎食後自分で入れ歯を洗浄する人、うがいのみされる方、能力に応じ支援している。			

己	自	部	外	項目	自己評価	外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は基本トイレで行う。尿意の訴えがなく尿失禁が多い方は、ご飯、入浴、寝る前など声をかけてトイレに行く機会を促している。車椅子の方でも自身でトイレに行かれている。	リハパンツやオムツの入居者が多いがトイレ誘導に対応している。入居者の状態によりトイレの便器に座ると足が届かず不安定になりポータブルトイレの使用で対応することを考えている。夜間のトイレに行く為の車椅子への移乗は転倒のリスクが高いので対応を協議中である。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日朝食にヤクルトを飲んでいる。運動もラジオ体操や掃除など取り入れている。排便管理が必要な方は行っている。				
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本毎日入れる状況。本人の希望する時間となると、人員配置の関係上希望通りとはなっていない。ゆっくり入ってもらえるように心がけている。午前中1時間かける方もいる。	原則として介助者不要の入居者は希望があれば何時でも入浴はできる。介助が必要な場合は昼間時間帯に一对一の介助で行っている。介助者は同性にこだわらないが希望があれば対応している。季節の行事湯はある。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室でしっかりお昼寝される方ソファでうとうとされる方、好きな場所で休息されています。				
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	何の薬なのかわかるようにしている。服用を断る時には、その人にとって重要なものだけでも極力飲んでもらうようにしている。副作用まで理解していない職員も多い。				
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好きな事を把握し、生活に取り入れている。散歩、歌、コーヒー、生け花が好きな方など。夜中目が覚めてお腹がすいたときにお菓子が食べたいと、お菓子を手元においている人も見える。				
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お菓子を買に行ったり、喫茶店に行ったりしている。普段行けないところへは、年間行事として外出する。家族と一緒に外食、お墓参りや美容院に行かれる方もいる。	介護度が低い入居者は近くのドラッグストアやスーパーマーケットに一人や二人だけで出かけることもある。一度迷子になり家族と話し合い外出時は迷子札を付けてもらっている。入居者の希望があれば外出や外食に出かけることもある。年間の行事で今年はいちご狩りに出かけた。			



己	自	部	外	項目	自己評価	外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50				○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	2人の方はおこづかい程度は自己管理されている。他の方は職員が管理し買い物時に支払っている。		
51				○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけるのは職員だか、本人が希望すれば、息子や娘と電話で話ができる。実際電話を掛ける人は少ない。		
52	(19)			○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓を開けたり、換気扇をつけたり、空気の入替えや臭いを除去。お雛さん、五月人形、季節にあった、花や飾りをしている。	貝殻を伏せた様な外観でリビングも居室も広い。リビングには食事用テーブルが三台あるが入居者の状態により配置を工夫している。ソファや一人用椅子が所々に置かれていて寛ぐ事ができる。畳敷きの小上がりがあり冬季はコタツが置いてある。	
53				○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを所々に置き、居心地の良いところで過ごせるよう環境を整えている。		
54	(20)			○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのあるダンスや椅子、鏡台など配置についても家族にお願いしている。本人の好きな花や人形を飾っている。	入居者はそれぞれ好みの私物を持ち込んでいる。仏壇を置いている入居者もいる。ドアを開けたままカーテンで目隠しをしている部屋や入退室の都度自分で施錠している入居者もいる。	
55				○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関から居室までバリアフリーになっており、手すりも長く設置されている。トイレも広く車椅子の方でも楽に入れる。杖・シルバーカー・歩行器など個々に合った歩行補助具を使用して自由に移動してもらっている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392800039		
法人名	医療法人十喜会		
事業所名	グループホーム向陽 B		
所在地	愛知県碧南市中山町6丁目10番地		
自己評価作成日	平成31年3月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユニバーサルリンク		
所在地	〒463-0035 愛知県名古屋守山区森孝3-1010		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当事業所は医療法人であり、病院、老人保健施設、デイサービス、居宅介護支援事業所を有しております。本人や家族が望めば、責任を持って最後までお世話させていただきます。安心してグループホームに入居して頂きたいです。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p></p>
---------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己	自	部	外	項目	自己評価	外部評価		
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>								
1		(1)		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の理念「本人の意思と家族の思いを十分に尊重する施設」を基に本人のやりたい事をできる限り行うようにしている。			
2		(2)		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、回覧板を回したり、声を掛け合ったりする。当事業所の秋祭りには近所の方々を招待している。昨年度に続き地域行事のハロウィンウォークに参加した。			
3				○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議や敷居の低い勉強会に出席し、民生委員や他事業所とのつながりも持っている。中学生や高校生の職場体験の受け入れもあるが、今年度は希望者がいなかった。			
4		(3)		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で家族に職員の異動、研修等の報告をしている。家族からの意見要望を聞く良い機会なので、職員も交代で出席し、家族の思いを感じ取り日々のケアに活かしている。			
5		(4)		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1度運営推進会議の議事録を提出す時、お互いの情報交換の場としている。			
6		(5)		○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	平成30年9月に内部研修を実施し職員への理解を促した。日中、玄関の施錠はしていない。			
7				○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	平成30年9月に内部研修を実施し職員への理解を促した。			

己	自	部	外	項目	自己評価	外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8				○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	平成30年9月に内部研修を実施し職員への理解を促した。		
9				○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に退居時の居室修理費やクリーニング代などについて説明をし、納得の上捺印してもらっている。		
10	(6)			○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議などで、意見交換が行われている。会議欠席の家族には、面会された時にこちらから声を掛け、要望などを聞き取っている。		
11	(7)			○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	最低月1回のミーティングを設けており、気軽に意見が言える環境をつくっている。		
12				○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は不定期ではあるが来設し、直接管理者や職員と話をしている。電話はいつでも通じる環境となっている。		
13				○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で月1回勉強会がある。外部研修には管理者が個人的に勧めたり、希望すれば、勉強する機会がある。		
14				○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知県グループホーム連絡協議会に加入して、市外の事業所とも勉強会などで交流している。市内に4事業所があり、当事業所の秋祭りに招待したり、ボランティアを紹介して繋がりを持っている。		

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接で好きな食べのものを聞き入居日の献立に取り入れ、本人の不安を少しでも取り除く。本人の隣で食事をしたり、お茶を飲んだり寄り添うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの本人の性格や好きだった事等家族より聞き取る。家族にここに入ることによって心配な事を聞き対応していく。家族も始めは緊張されている為、コミュニケーションを密に取るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の心配ごとへの対応考え、入居して頂いたのだから家族が安心してもらえるように、また場所が変わり本人の不安軽減に対応する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者ができる事は皆で協力してやってもらっている。買い物、掃除、食事の準備や後片付け、洗濯物たたみ、鯉の餌やり、植木の水やり、草取りなどで助けあえる環境をつくっている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診、理美容、誕生日の夕食を家族にお願いし、協力してもらっている。お祭り、忘年会など行事の参加も家族の役割と思って参加を呼び掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのスーパーに出掛け、知人に会ったりすることがある。友人や親せきが気軽に訪ねて来てくれる雰囲気をつくっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が上手く関われるよう間に入ったりしている。気の合わない人もいる為関わる際には十分注意して見守っている。		

己	自	部	外	項目	自己評価	外部評価		
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22				○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院し、退去された方でも職員が見舞う。又管理者はグループホームでの生活や家族の思いを病院の看護師や相談員に伝えている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>								
23	(9)			○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の話の中で本人の思いを感じ取ったり、本人と話し合いながらケアを行っている。不十分な点は家族より聞き取り、本人本位に行っている。			
24				○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に聞いたり、カルテを見たり情報収集するよう努めている。又他の職員と共有している。			
25				○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りで、いつもと違う様子などを伝えている。又月1回、カンファレンスで本人の状態を共有し合っている。			
26	(10)			○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン更新は、職員皆で話し合いながらモニタリングを行いケアプランに役立てている。6ヶ月に1度だが、変化あればその都度ケアプランを変更している。			
27				○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化や気づきがあれば、カルテや申し送りノートに記入し、情報を共有している。			
28				○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望を可能な限り叶えられるよう、前向きに検討している。			

己	部	外	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入し、回覧板を通じて交流している。 また、買い物の際にスーパーの職員との挨拶で地域とのつながりを作れている。		
30	(11)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人、家族が納得するところとしている。本人の日常の状態は家族より当事業所の方が把握できている為、受診の際は健康チェック表のコピーを持って行ってもらうこともある。		
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化あれば看護師である管理者に報告し、受診につなげている。		
32			○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先が市民病院や法人内の病院の為横のつながりは出来ており、支障はない。市民病院から退院調整会議に声がかかると、管理者、職員が出席する。		
33	(12)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	以前に行き場がない白血病の方を最後まで看させてもらった経験がある。本人、家族が看取りを望めば受け入れて行くつもりはある。		
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが、夜間等の事故対応には不安はある。		
35	(13)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時、地震時の簡単なマニュアルはあるが、夜間帯夜勤者は不安が大きい。		

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し対応をしているつもりでケアをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好みのおやつや希望や着替えの服を選んでもらったり、二者択一などで選びやすいように工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	基本、本人の生活リズムを大切にしている。居室に入ったり出たり何度もしたり、遅くまで起きていたり、自由である。今日はコーヒーが飲みに行きたいと誰かが言えば、都合が良ければ出かける。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できるだけ本人に服を選んでもらったり、床屋がいい人、美容院がいい人、染めたい人、化粧水や乳液を付けたい人。爪の手入れでマニキュアをする方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニットで献立が違う。献立を立てる際、入居者に希望を聞きなるべく取り入れる。(天ぷらうどん、さしみなど)準備片づけなど、能力に合わせ行ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は個々に違う為、盛りつけている。水分については10時12時15時の他ペットボトルを使用している人もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後の口腔ケアのみ全員しているが、後は人それぞれで、毎食後自分で入れ歯を洗浄する人、うがいのみされる方、能力に応じ支援している。		



己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は基本トイレで行う。尿意の訴えがなく尿失禁が多い方は、ご飯、入浴、寝る前など声をかけてトイレに行く機会を促している。車椅子の方でも本人の行動でトイレがわかる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日朝食にヤクルトを飲んでいる。運動もラジオ体操や掃除など取り入れている。排便管理が必要な方は行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本毎日入れる状況。本人の希望する時間となると、人員配置の関係上希望どうりとはなっていない。ゆっくり入ってもらえるように心がけている。姉妹で一緒に入り入浴を楽しんでいる利用者様もいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室でしっかりお昼寝される方ソファでうとうとされる方、好きな場所で休息されています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	何の薬なのかわかるようにしている。服用を断る時には、その人にとって重要なものだけでも極力飲んでもらうようにしている。副作用まで理解していない職員も多い。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好きな事を把握し、生活に取り入れている。散歩、カラオケ、コーヒー、囲碁が好きな方など。夜中目が覚めてお腹がすいたときにお菓子が食べたいと、お菓子を手元においている人も見える。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所のスーパーへお菓子を買に行ったり、服を買に行ったり喫茶店に行ったりしている。普段行けないところへは、年間行事として計画を立てている。家族と一緒に外食、お墓参りや床屋に行かれる方もいる。		

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	4人の方はおこづかい程度は自己管理されている。他の方は職員が管理し買い物時に支払っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的に電話をかけるのは職員だか、本人が希望すれば、職員に一声掛けた後自身で子どもや知人に電話をかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓を開けたり、換気扇をつけたり、空気の入れ替えや臭いを除去。2階は西日が入りすぎるので早目にカーテンを引くなど配慮している。室温は入居者中心に考え、暑すぎない寒すぎないようにしている。お雛さん、五月人形、季節にあった、張り絵を飾ったりしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを所々に置き、居心地の良いところで過ごせるよう環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのあるタンスや椅子、鏡台など配置についても家族にお願いしている。本人の好きな花や人形を飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関から居室までバリアフリーになっており、手すりも長く設置されている。トイレも広く車椅子の方でも楽に入れる。杖・シルバーカー・歩行器など個々に合った歩行補助具を使用して自由に移動してもらっている。		